卒業50年と古稀を祝う

首都圏三〇会

卒業五十年という節目の年、我々もついに古稀を迎えた。

平成十七年九月十三日、古稀を互いに祝うべく名古屋の熱田神宮へ参集した面々は三十名。

はるか記紀神話に由来をもつというこの社で神妙に祝詞の奏上に耳を傾け、お祓いを受けた。

夕刻、浜名湖畔の館山寺温泉に再集合。卒業五十周年の記念祝宴である。

紫紺の同窓会旗を高く掲げ、物故の同期生を偲び黙祷を捧げた後、多くの参加者から豊かな半生を思わせるスピーチあり、年季の入った芸ありの賑やかなひとときであった。

最後は恒例により校歌で締めをむかえた。

宴も果て、ホテルの屋上の露天風呂で、夜風に身を曝しながら見上げた朧月はなかなかのものであった。（荻原　記）

まいど!! 関西燦々会だす

昭和33年卒関西地区同期会

関西地区の燦々会は毎年一月に新年会、夏には納涼会を開催している。開催にあたっては、国元の本家燦々会の幹部連中に泣き付き故郷の山海の珍味を無心する。長年の浪速生活で大阪のオバチャン顔負けの抜け目なさも身につけた。差し入れのお陰もあり毎回のように大盛会である。

また平成十七年度の近畿支部総会で当会会員の宇佐見一雄君が支部長に選ばれた。当会員一同も、新支部長とともに支部運営に微力を捧げたい。

秋中21・22同期会

平成17年7月22日
於　駒ヶ岳観光ホテル

昭和26年卒同期会

平成17年10月7日
於　協働大町ビル

秋中二〇四同期会

平成十七年八月三十一日午後五時、同志二十五名が川反の料亭「濱乃家」に集合。一年ぶりの再会に思いも新たに卒業六十周年を祝った。ちなみに十年前の参加者は五十名だったとのこと。

緑の酒は心地よく、中にはお猪口ではもどかしく、コップで冷酒をぐい飲みする豪傑も多々見られた。

（石井直明　記）